

ダイヤモンド・イン・パラダイス

2006(平成18)年2月26日鑑賞(梅田ピカデリー)

★★★★



監督=ブレット・ラトナー/原作・脚本=ポール・ズビツェウスキー/出演=ピアース・ブ
ロスナン/サルマ・ハエック/ウディ・ハレルソン/ドン・チードル/ナオミ・ハリス/ク
リス・ベン (ギャガ・コミュニケーションズ配給/2004年アメリカ映画/98分)

……『007』シリーズのジェームズ・ボンドと同じく知的でダンディな主人公マックスだが、一方は超エリートスパイであるのに対し、こちらは超エリート泥棒……。またジェームズ・ボンドは生涯独身(?)で女性関係華やかだが、マックスは知能・肉体ともに優秀な(?)1人の女性にぞっこんで、公私ともにいつも一緒。マックスが狙う次のターゲットは難攻不落の財宝「ナポレオン・ダイヤモンド」だが、そうなると、既に泥棒稼業を引退し、バカンスを楽しもうとする恋人との間に不協和音が……。お色気タップリでコメディタッチの「バケーション映画」を、頭を空っぽにして楽しめばいいのだが、ここにも女性上位の姿がはっきりと……。そして最後に待っているのは、意外にヒューマンな結末……。

ジェームズ・ボンドかマックスか?

ジェームズ・ボンドといえば、映画ファンならずとも知らない人はほとんどいないほど有名な人物。言わずと知れた『007』シリーズの主役だが、ジェームズ・ボンドの役は初代のショーン・コネリーから何代か代替わりしている。この映画の主役マックスを演じたピアース・ブロスナンは、5代目ジェームズ・ボンド役者として、『007/ゴールドデンアイ』(95年)、『007/トゥモロー・ネバー・ダイ』(97年)、『007/ワールド・イズ・ノット・イナフ』(99年)、『007/ダイ・アナザー・デイ』(02年)の4本に出演している大俳優。ところがそのピアースが40周年記念の第20作『007/ダイ・アナザー・デイ』を最後にジェームズ・ボン

ド役を降板したため、次回第21作のジェームズ・ボンド役は、『トゥームレイダー』(01年)などのダニエル・クレイグに決まっているとのこと。

ピアースはブレット・ラトナー監督よりも先にこの映画に参加することを確約したらしいが、なぜジェームズ・ボンド役を降りてまでこの映画のマックス役にこだわったのだろうか？ それはひょっとして、ジェームズ・ボンド以上にこのマックスがカッコいいと思ったからかも……？

サルマ・ハエックという女優に注目！

マックスの相棒のローラ役として登場するサルマ・ハエックは、『フリーダ』(02年)の予告編を観た時から私が注目していた女優。残念ながらこの作品を観ることはできなかったが、彼女はこの作品でアカデミー賞主演女優賞にノミネートされた。パンフレットによれば、彼女は1966年にメキシコで生まれたとのこと。そして『フリーダ』での役とは全く違うこの映画でのローラ役を観ていると、超ボインの肉体派女優とってしまうが、実はプロデュース業にも進出するなど、かなり多彩な才能の持ち主のよう。私もこれからの彼女に十分注目していこう。

FBI 捜査官がこれでは困りモノ……？

泥棒ながらクールでカッコいいマックスに対して、FBI 捜査官ながら、ドジでカッコ悪いのがスタン（ウディ・ハレルソン）。このスタンがマックスの泥棒としての才能と実力を高く評価しているのは、自分が1度煮え湯を飲まれた体験を持っているから。映画の冒頭に展開されるのがそのシーン。

FBIの総力を挙げて一方ではバスケットの試合を見物しているマックスの動静をチェックしつつ、他方ではナポレオン・ダイヤモンドの移動の任務についているのがスタンだったが、そこでスタンはまんまと一杯食わされることに……。そのお手並みの鮮やかさは、映画の上でのつくりモノとはいえ、実にお見事なもの。

既に2つのダイヤを手中に収めたマックスが、最後の3つ目のナポレオン・ダイヤモンドに手を出すはずだと読んだスタンは、今ローラとともに超豪華なバカンスを楽しんでいるマックスの元へ。そこは地上の楽園、カリブ海に浮かぶバハマにあるパラダイス・アイランドだった。

現役続行か引退か？

プロ野球でもサッカーでも相撲でも、一流選手として活躍していた人が、その華やかな現役生活に別れを告げ、いつ引退するかは難しい判断。それは一流泥棒でも同じ。しかしマックスもローラも、冒頭の鮮やかなダイヤモンド奪取を最後の仕事と位置づけていたため、これを大成功させた2人は大金を抱いて、地上の楽園バハマのパラダイス・アイランドへ。海辺の別荘で、海と夕日を見ながら、2人でバカンス三昧の毎日を……。ここで問題は、女はこういう夢見ていた生活の中にドップリと浸り、幸福を感じることができる動物であるのに対し、男はそうもいかず、次の目標に向けて行動したがる動物だということ。もっとも、スタンはそう考えたわけではなく、一流泥棒のマックスは港に停泊している豪華客船「セブン・シーズ」に展示されている最後のナポレオン・ダイヤモンドを狙うはずだと確信し、それを阻止すべくこのパラダイス・アイランドへやってきたもの。そんなすばらしい「獲物」を自分の目で確認したマックスは、泥棒の虫を抑え、引退してバカンスをローラとともに楽しむことができるのだろうか……？

地元のワルは？

超優秀な泥棒が引退して、このパラダイス・アイランドで恋人とともにバカンスを楽しんでいるというわさを嗅ぎつけたのは、地元のギャングのボスであるヘンリー・ムーア（ドン・チードル）。そこでムーアが考えたのは、「セブン・シーズ」からのナポレオン・ダイヤモンド奪取にマックスを利用すること。しかしマックスは、既にローラとともに泥棒稼業の引退を決意している身。したがって当然のように、ムーアからの申し出を丁重に断った。

しかし、一方ではスタンからの挑発を受け、他方ではムーアからの誘惑を受ける中、泥棒としてのプライドをくすぐられたマックスは……？

元気な若手女性刑事は？

地元警察はムーアの力を知っているため、その悪事にあまりタッチしたがらないが、元気な若手女性刑事のソフィー（ナオミ・ハリス）は別。そしてまたソフ

イーはムーアが大キライ。こんなソフィーとひよんなことで知り合ったスタンは、マックスのナポレオン・ダイヤモンド奪取作戦阻止のための共闘態勢をとったが、さてその実力のほどは……？ このソフィーを演ずる1976年生まれの名オムニ・ハリスは、『28日後……』(02年)での演技をブレット・ラトナー監督に認められて、大抜擢されたとのこと。この映画では脇役だが、近いうちにシリアスな主役が舞い込むのでは、と期待できる女優だ。

🎬 浮気の虫に勘づいた恋人は……？

女は男以上に恋人の浮気心に敏感なもの……？ もっとも、マックスはジェームズ・ボンドのような浮気モノではなくローラにぞっこん状態だから、他の女に色目を使うことは全くなかった。マックスの「浮気の虫」とは、言うまでもなく、優雅なパカンスを楽しんでいる中でも、ナポレオン・ダイヤモンドを奪取したいという仕事の虫が湧いてくること。しかしそれは、ローラにとっては絶対に許すことのできないこと。その点男は軟弱だが、女は明快。そこで登場するシーンは、「私をとるのか、それとも仕事をとるのか」と女が男に迫るよくあるパターン。そしてそれに対するマックスの対応も、「わかりました」と表面上のトラブルは抑えたうえ、裏でコソコソ行動するというよくあるパターン。

しかしそれまでは、すべて2人のコンビで鮮やかなお手並みを見せていた泥棒稼業を、今度は裏でコソコソ、1人だけでできるのだろうか……？

🎬 ハイライトは海の中……

このマックスという男はよほど頭がいいらしい。多分ピアース・ブロスナンがジェームズ・ボンド役を振ってまで、誰よりも先にこの映画への出演を決めたのは、このハイライトシーンでの鮮やかなマックスのお手並みにホレたからだろう。

マックスには、ナポレオン・ダイヤモンドの奪取について2つの乗り越えなければならない大きな壁があった。その第1は、難攻不落の防御態勢。そして第2は、それを絶対にローラに内緒でやらなければならないこと。そこでマックスが考え抜いた結果たどり着いた結論は、アリバイづくりにスタンとソフィーを利用すること。さて、そんな神サマみたいなことがホントに実現可能なのだろうか？

それは映画を観てのお楽しみ……。

ドタバタ劇その1は？

鮮やかなお手並みでナポレオン・ダイヤモンドの奪取に成功したマックスだったが、その奪取の見返りとして失ったものは、ローラの信頼と愛……。荷物をまとめ別荘を出て行こうとするローラを引き止めようとしたが、ローラはそれを振り切ってドアの外へ。こんな男女のモメゴトの真っ最中に突然登場したのはムーア。ムーアの要求は、もちろんマックスに対するナポレオン・ダイヤモンド奪取の報酬請求。しかし、マックスがムーアと組んで仕事をしたのではないことは明らかだから、ムーアの要求は、公序良俗違反の点は別としても、法的に全く根拠のないもの。しかし、そこで起こるドタバタ劇は……？

ドタバタ劇その2は？

この映画の中では、スタンは冒頭から中盤そしてラスト近くに至るまで、すべてにマックスの後塵を押し、カッコ悪い立場ばかりに置かれてきた。しかしラスト近くになると、さすがにスタンも FBI 捜査官と思わせるような大ドンデン返し……。再三酔い潰れてクダを巻く惨めな姿をさらしていたスタンだったが、それは実は世を忍ぶ仮の姿……。忠臣蔵の大石内蔵助のようなもので、スタンの頭脳はシラフそのものだったのだ。しかして、マックスが奪取したはずのナポレオン・ダイヤモンドを手にしたのは……？

ドンデン返しその1、その2

この映画はラストに2つのドンデン返しが待っている。そのテーマの第1は、やはりナポレオン・ダイヤモンドは誰の手に、ということ。そして第2のテーマは、マックスとローラの男女の仲は、ということ。そのタネ明かしをここでするわけにはいかないのは当然だが、美しいカリブ海をバックとして、盗みのテクニクあり、男女のトラブルあり、ドタバタ劇ありの楽しい映画のラストは、意外にヒューマンなもの。これなら、すべての女性客が納得できるのでは……？

2006(平成18)年2月28日記